



「水辺の小さな自然再生」事例紹介

記入年月 2018年11月

都道府県名	新潟県		河川名	久知川					
事例タイトル	バープ工によるホタル復活の取組み								
写真	 <p>中学校での「生物多様性」の座学 (徳島大学大学院河口准教授)</p>			 <p>バープ工設置の様子 (石を入れた袋の口を閉じる)</p>					
水系名/河川名	久知川水系/久知川		場所	新潟県佐渡市久知河内					
位置情報 (緯度経度)	38.042951, 138.469405		活動開始年	平成29年					
活動概要 (経緯・目的等)	<p>かつてホタルの里として広く知られていた佐渡市東部の久知河内集落では、平成18年頃からホタルが激減し、地域が誇りにしていた「ホタル祭」が開催できなくなっています。県では、地元の活動団体との意見交換を機に、平成29年から地元の活動団体とともに学識者等を招いて現地調査し、対策検討を進めてきました。平成30年には、ホタルやカワニナが久知川に定着するように、中学生と協働でバープ工を設置しました。</p>								
再生の手法	簡易魚道		簡易水制 (巨石・ブロック)		バープ工 (上向き水制)	○	石倉かご・竹蛇籠		植生ロール・ポット
	魚道改良		たまり・わんど造成		河床攪乱		その他 (記述)		
実施体制 (活動の担い手)	市民・市民団体	○	河川管理者 (国)		河川管理者 (都道府県)	○	河川管理者 (市町村)		河川管理者以外の地元自治体
	大学・研究機関	○	学校 (小中高)	○	企業		その他 (記述)		
工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> バープ工設置が重労働で、高齢化した地域の活動団体のみでは困難なため、地元中学校 (1年生) に協力を求めました。 中学生には事前に「生物多様性」や「バープ工設置」の座学を行い、活動の意味を理解してもらいました。 バープ工設置作業は、年齢・団体等幅広い構成で協働で実施しました。 生物調査も実施し、佐渡の豊かな生き物や魚道の効果を実感してもらいました。 								
今後の課題	<p>設置したバープ工が今後の出水を経てどのように変遷するか、カワニナ放流後にどの程度定着するか、ゲンジボタルが定着するかを継続的に観察していきます。こうした観察や、その結果を受けての対応を、地元の活動団体が継続的に実施していかなければなりません。</p> <p>しかし、高齢化した集落では、こうした活動の継続自体が課題であると感じています。</p>								
効果 (直接的な効果・間接的な効果)	<p>設置したバープ工の周辺では、その後の小規模な出水を経て、やや蛇行した流れが生じています。今後、バープ工の水制効果により、さらに流れに変化が生じればと期待しています。</p> <p>従前の河床は上流のダムの影響で粗粒化が進行していましたが、各バープ工の根元には砂礫や泥が堆積しはじめています。一般に、ホタルの幼虫は砂礫底を、カワニナは砂泥底を好むといわれており、こうした底質環境の変化はホタル復活にとって非常に効果が期待できます。</p>								
関連URL等	http://www.pref.niigata.lg.jp/sado_seibi/1356899134638.html								